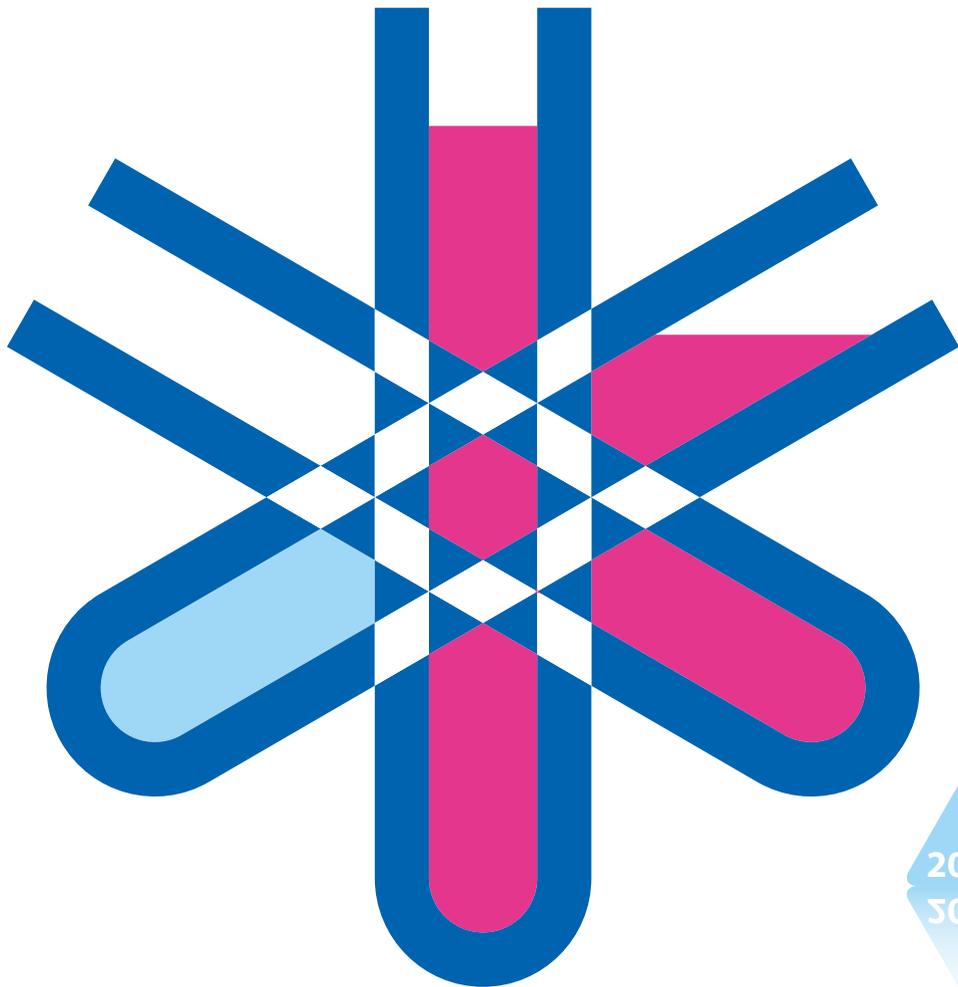


横查情報月報



3

3

横浜市衛生研究所

令和6年3月号 目次

【検査結果】

アレルギー物質を含む食品検査（令和5年度）	1
器具及び容器包装の規格試験の検査結果（令和5年度）	3
農産物の残留農薬検査結果（令和5年11月～令和6年2月）	5

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年2月）	7
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和6年2月）	8
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

アレルギー物質を含む食品検査（令和5年度）

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、症例数が多いものや重篤度の高いもの8品目（卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに、くるみ）が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入（コンタミネーション）等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和5年度に、医療局専門監視班がインターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した食品54検体並びに各区福祉保健センターが市内の保育所、小学校及び仕出し業者から収去した特定原材料除去食78検体、合計132検体について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

インターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した原材料に卵を使用していないとされる食品18検体（弁当・そうざい類15検体、菓子類3検体）並びに市内の保育所、小学校及び仕出し業者から収去した卵除去食等30検体（弁当・そうざい類29検体、菓子類1検体）、合計48検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、47検体は陰性（10ppm未満）で、1検体は陽性でした（表1）。

陽性となった検体（ヒレカツ）は、ウエスタンブロット法による確認試験でも陽性となりました。この結果を受けて、区福祉保健センターが製造者に指導を行いました。

表1 卵の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類（カレー、ヒレカツ、かきたま汁等）	44	1	1	1
菓子類（クッキー、ケーキ、蒸しパン）	4	0	-	-

2 乳の検査

インターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した原材料に乳を使用していないとされる食品18検体（弁当・そうざい類15検体、菓子類3検体）並びに市内の保育所、小学校及び仕出し業者から収去した乳除去食等32検体（弁当・そうざい類24検体、菓子類8検体）、合計50検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、全て陰性（10ppm未満）でした（表2）。

表2 乳の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類（グラタン、ドリア、クリームシチュー等）	39	0	-	-
菓子類（クッキー、ケーキ、ムース等）	11	0	-	-

3 小麦の検査

インターネット買取及び市内の食品製造施設から収去した原材料に小麦を使用していないとされる食品18検体(弁当・そうざい類15検体、菓子類3検体)並びに市内の保育所及び小学校から収去した小麦除去食等16検体(弁当・そうざい類16検体)、合計34検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

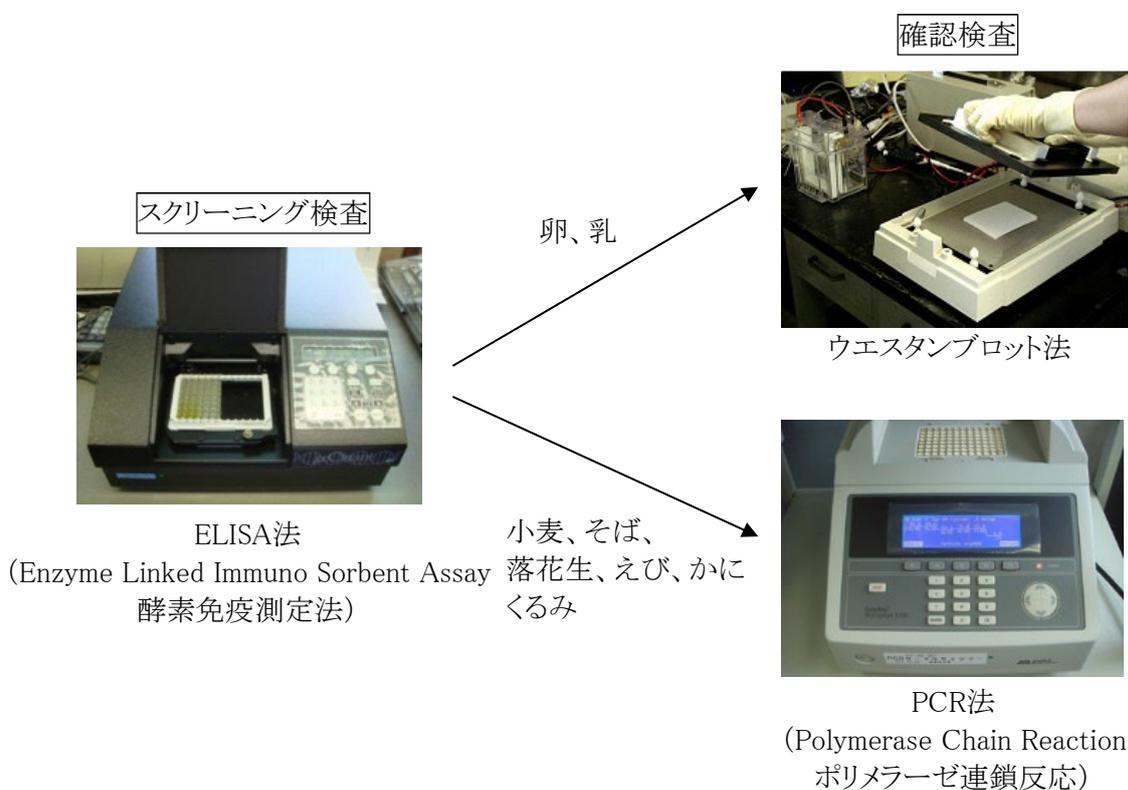
検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類(グルタン、ギョーザ、カレー等)	31	0	-	-
菓子類(クッキー、ケーキ)	3	0	-	-

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウエスタンブロット法とPCR法の2種類があります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウエスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに、くるみ」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

器具及び容器包装の規格試験の検査結果（令和5年度）

食器や調理器具、包装材などは、食品と直接接触して使用されることから、一部が剥離又は化学物質が溶出して食品が汚染される可能性があります。そのため食品に接触する器具及び容器包装については食品衛生法で規格が設定されており、この規格に適合している必要があります。

令和5年度に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが市内で収去した合成樹脂製の容器包装等26検体について、器具及び容器包装の規格試験を行いました(表1)。

検査の結果、すべての検体が規格に適合していました。

表1 器具及び容器包装の規格試験の検体数と項目数(令和5年度)

材質	検体	検体数	検査項目数	検査項目								
				一般	材質試験			溶出試験				
				着色料	カドミウム	鉛	重金属	過マンガン酸カリウム消費量	アンチモン	ゲルマニウム	蒸発残留物	
ポリエチレン樹脂	フリーザーバッグ、クリームしぼり袋、ソフトまな板、手袋、ポリ袋等	8	48	8	8	8	8	8	8			8
ポリプロピレン樹脂	惣菜容器、フリージングブロットレー、ストロー等	8	48	8	8	8	8	8	8			8
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂	ストロー	3	18	3	3	3	3	3	3			3
ポリエチレンテレフタレート樹脂	カップ、惣菜容器	7	56	7	7	7	7	7	7	7	7	7
合計		26	170	26	26	26	26	26	26	7	7	26

【規格について】

器具及び容器包装又はこれらの原材料は、許可された着色料以外が溶出しないように規定されています(原材料一般の規格)。また、材質・使用用途別に規格が設定されており、材質試験と溶出試験を実施して評価します。材質試験は検体中に含まれている化学物質、溶出試験は検体から溶け出す化学物質を測定します。参考に、今回検査した材質の規格を示しました(表2)。

表 2 器具若しくは容器包装又はこれらの原材料の一般及び材質別規格

種類	項目		規格
一般	着色料		食品衛生法施行規則別表第1 掲載品目に掲げる着色料以外の化学的合成品たる着色料を含むものであってはならない。ただし、着色料が溶出または浸出して食品に混合するおそれがないように加工されている場合はこの限りではない。
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂*	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		蒸発残留物	30 μ g/mL 以下
ポリエチレンテレフタレート樹脂	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		アンチモン	0.05 μ g/mL 以下
		ゲルマニウム	0.1 μ g/mL 以下
蒸発残留物	30 μ g/mL 以下		

* ポリエチレン単一の樹脂とポリプロピレン単一の樹脂も、同一の規格です。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

農産物の残留農薬検査結果（令和5年11月～令和6年2月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和5年11月～令和6年2月に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

市内産農産物については、11月にキャベツ5検体、かぶの根、こまつな、さつまいも、だいこんの根、なす、はくさい及びピーマン各1検体の計12検体、1月にさといも2検体、キャベツ、こまつな、さつまいも、だいこんの根、にんじん、はくさい、ブロッコリー及びほうれんそう各1検体の計10検体、2月ににんじん3検体、キャベツ、さといも、ばれいしょ及びブロッコリー各2検体、かぶの根、さつまいも、だいこんの根及びはくさい各1検体の計15検体、合計で37検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。かぶの根、キャベツ、こまつな、だいこんの根、なす、にんじん及びはくさい各1検体から延べ7項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

（令和5年11月～令和6年2月）

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
かぶの根	2	1	ジノテフラン	0.02	0.5
キャベツ	8	1	ジノテフラン	0.01	2
こまつな	2	1	テフルトリン	0.01	0.5
さつまいも	3	0			
さといも	4	0			
だいこんの根	3	1	ジノテフラン	0.03	0.5
なす	1	1	アゾキシストロビン	0.10	3
にんじん	4	1	ジノテフラン	0.01	1
はくさい	3	1	ジノテフラン	0.11	6
ばれいしょ	2	0			
ピーマン	1	0			
ブロッコリー	3	0			
ほうれんそう	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○	—	○	—	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	エボキシコナゾール	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	エンドリン	0.005	○	—	—	—
アセタミプリド	0.01	○	○	○	—	オキサミル	0.01	○	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	—	クミルロン	0.01	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	—	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○

表 2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	フェノプロカルブ	0.01	○	○	○	○
クロロクシロン	0.01	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	フェンプロバトリン	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	フルジオキソニル	0.01	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	プロバホス	0.01	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ヘブタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○	—
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
トリフロキシストロピン	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	—
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	—
ピフェントリン	0.01	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	—
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	○						

農産物の種類 A:こまつな、にんじん、ピーマン、ブロッコリー、ほうれんそう B:かぶの根、キャベツ、なす、はくさい
C: さつまいも、さといも、ばれいしょ D:だいこんの根

○:実施、—:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年2月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年2月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和6年2月に追加・更新した主な記事は、7件でした。

掲載月日	内容
2月1日	横浜市インフルエンザ流行情報 19号
2月8日	横浜市インフルエンザ流行情報 20号
2月9日	感染症に気をつけよう(2月号)
2月15日	横浜市インフルエンザ流行情報 21号
2月21日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
2月22日	横浜市インフルエンザ流行情報 22号
2月29日	横浜市インフルエンザ流行情報 23号

2 記事紹介

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2023.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年2月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの報告が、依然として続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年2月期に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	5件	急性弛緩性麻痺	1件
E型肝炎	4件	急性脳炎	2件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	9件	梅毒	28件

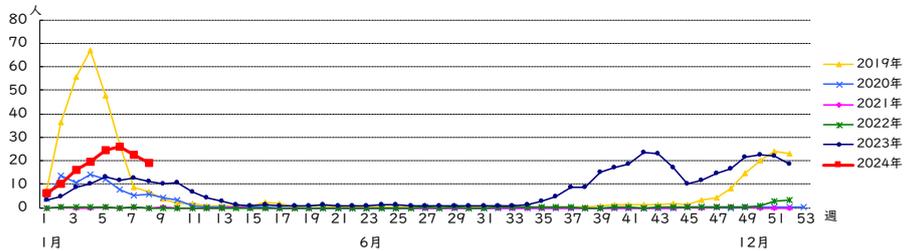
- 腸管出血性大腸菌感染症:**20歳代～50歳代で、血清群O157が2件、O20が1件、血清群不明が2件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件です。
- E型肝炎:**30歳代～80歳代で、経口感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が1件です。
- A型肝炎:**80歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されています。
- レジオネラ症:**60歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件です。
- アメーバ赤痢:**50歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症:**10歳未満～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 急性弛緩性麻痺:**10歳代で、病原体不明、感染経路等不明です。
- 急性脳炎:**10歳未満～50歳代で、病原体はVZVが1件、不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):**20歳代～80歳代で、性的接触(同性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:**70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)、いずれも型別不明です。接触感染と推定される報告が1件、その他とされる報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:**10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回2件、無2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 梅毒:**10歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間19件、同性間4件、詳細不明4件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第4週	1月22日～1月28日
第5週	1月29日～2月 4日
第6週	2月 5日～2月11日
第7週	2月12日～2月18日
第8週	2月19日～2月25日

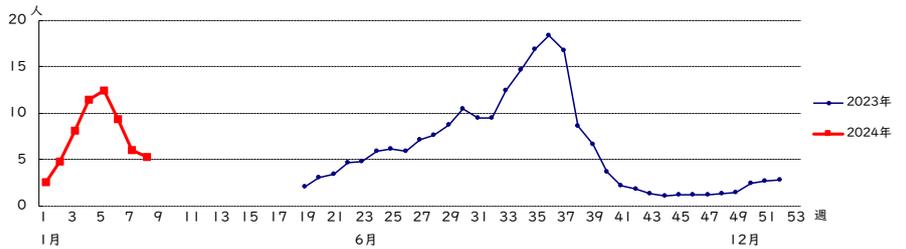
1 インフルエンザ

2023年第39週に流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第8週は19.03です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報23号をご覧ください。



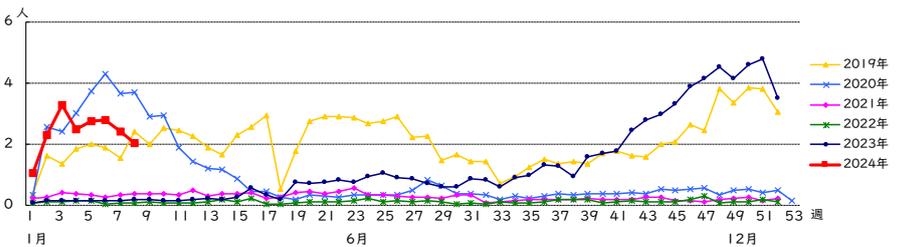
2 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日(第19週)より定点報告となりました。2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第6週以降減少傾向に転じ、第8週は5.30です。



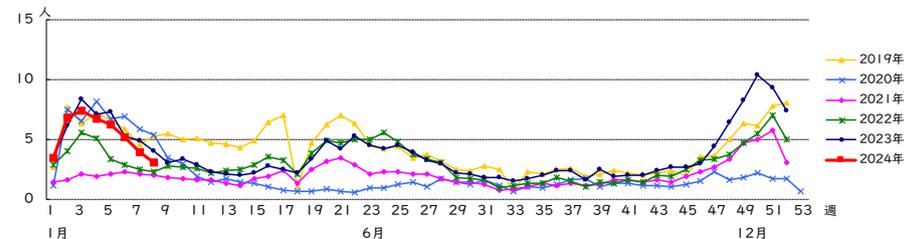
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第1週以降、増加傾向が継続しましたが、第4週以降減少傾向に転じ、第8週は2.03です。



4 感染性胃腸炎

2024年第4週以降、減少傾向に転じ、第8週は3.04です。



5 性感染症(2024年1月)

性器クラミジア感染症	男性:39件	女性:29件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:17件	女性:4件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:0件	淋菌感染症	男性:15件	女性:6件

6 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月期(2024年第4週～2024年第8週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点44件、内科定点9件、基幹定点2件、定点外医療機関2件でした。

3月4日現在、表に示した各種ウイルスの分離25株と遺伝子7件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第4週～2024年第8週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	アデノウイルス感染症
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	3 -			
インフルエンザウイルス AH3型	9 1			
インフルエンザウイルス B型(ビクトリア系統)	8 4		1 -	
アデノウイルス	- 1			
アデノウイルス 3型		1 -		2 -
ヘルペスウイルス1型		1 -		
ライノウイルス			- 1	
合計	20 6	2 -	1 1	2 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月期(2024年第4週～第8週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌4件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、侵襲性肺炎球菌1件でした。非定点からの検査依頼はありませんでした。保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌4件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌12件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌2件、侵襲性肺炎球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ属菌3件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は発熱・咽頭炎・咽頭痛1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第4週～第8週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関 基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	4	<i>Klebsiella aerogenes</i> (4)	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	4	<i>Staphylococcus aureus</i> (4)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	4	O157:H7 VT2 (1)、O137:H41 VT2 (1)、OUT:H19 VT2 (1)、OUT:H10 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	12	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (9)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 T1 (2)	
	侵襲性インフルエンザ菌	2	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (2)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 22 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	3	<i>Legionella pneumophila</i> SG1(1)、培養陰性(2)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	発熱(38.6℃)、咽頭炎、咽頭痛	1	A群溶血性レンサ球菌 T1 陽性(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】